

講義名	地域環境政策		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	内山 勝久		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限	授業形態	
	2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース/2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース/2019年度 人間社会学部 人間健康学科/2019年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース/2019年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース/2019年度 人間社会学部 観光学科/		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
この授業は、国内外で実践されているいくつかの環境政策を概観し、政策の背景にある考え方を理解することを目的とします。環境問題は地域的な問題から地球規模の問題までさまざまですが、私たちの経済活動に起因している点で共通しています。授業では統計などの諸資料を活用しながら現状を客観的に理解するとともに、環境政策の潮流などについて解説・検討します。社会科学全般の観点から各種政策を考察しますが、とくに経済学の知見を多用し、近年注目されている環境政策の経済的手法の考え方の理解に重点を置きます。

到達目標
環境問題を理解するための基本概念を学んだ上で、各受講生が現代社会の重要課題である環境問題やサステナビリティについて経済学的思考を中心に広い視野から主体的に考察し、自らの言葉で他者に説明できるようになること、新たな問題意識の発見や醸成、深耕につなげられるようになることを目標とします。

提出課題
中間課題として、期中にレポートを提出してもらう予定です。詳細については授業内で説明します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
提出されたレポートについては、授業内でコメントしたり、授業の内容に反映する予定です。

評価の基準
中間課題レポート40％、期末試験60％の比率で評価します。授業内容に関する的確な質問や優れたレポートに対しては、上記の配点を超えて加点評価します。

履修にあたっての注意・助言他
授業中の私語は禁止です。他の意欲的な学生にとって大きな迷惑行為となりますので、厳に慎んでください。質問等で発言が必要な場合は挙手の上行ってください。

教科書
・特定の教科書は使用しません。

プリント資料及び参考文献
担当教員が作成した資料を毎回配布します（配布の方法については初回の授業時に説明します）。その他の参考文献は必要に応じて適宜授業中に紹介しますが、差し当たって以下のものを挙げておきます。 ・環境省 『環境白書 循環型社会白書・生物多様性白書』（各年版）。（ https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/ ） ・亀山康子、『新・地球環境政策』、昭和堂、2010年 ・浅子和美・落合勝昭・落合由紀子、『グラフィック環境経済学』、新世社、2015年。

授業計画
<p>第1回 イントロダクション： 授業のねらいや環境問題の実態について</p> <p>第2回 環境をめぐる国内外の動き： 環境問題と環境政策の歴史、国際協調について</p> <p>第3回 環境政策の考え方： 環境問題と経済活動の関係、環境政策の手段について</p> <p>第4回 環境と持続可能な発展： 持続可能な発展の考え方、発展途上国の開発・発展と環境について</p> <p>第5回 環境と経済成長： 環境と貿易、環境クズネッツ曲線について</p> <p>第6回 エネルギー問題と環境政策（1）： エネルギー消費の現状と政策について</p> <p>第7回 エネルギー問題と環境政策（2）： 気候変動対策と経済的手段について</p> <p>第8回 廃棄物管理政策： 廃棄物の現状と廃棄物問題の経済学的特徴について</p> <p>第9回 循環型社会形成への取り組み： 市場を活用した資源有効利用について</p> <p>第10回 企業行動と環境政策： 環境政策と企業の環境配慮行動について</p> <p>第11回 金融と環境政策： ESG投資など金融を活用した環境改善の潮流について</p> <p>第12回 都市・まちづくりと環境政策（1）： 低環境負荷のまちづくりに関する経済的手法について</p> <p>第13回 都市・まちづくりと環境政策（2）： 環境修復とまちづくり、グリーンインフラについて</p> <p>第14回 環境と経済社会： 環境負荷の見える化、幸福度の考え方について</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>

授業形態（アクティブ・ラーニング）
ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
授業前に、授業で取り上げるテーマについて新聞・雑誌・ウェブサイトなどで関連する情報を集め、自分なりのイメージを持っておいください（その上で授業に臨むこと）；約1時間 授業終了後は、記憶が鮮明なうちに復習してください（復習してわからなかった点は質問してください）；約1時間。さらに毎回の授業のなかで自分が関心を持ったトピックについて新聞・雑誌・ウェブサイトなどでより詳しく調べて、自分の問題意識を醸成してください；約2時間。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考